



行状記

はれを水子平陸島矢切原に

ありし古情の故を水子かた

十妻の御印を二の古所

しそ風流を尋り矢切原に

出立しちりけみもをむせの力を

あめりかおんかこはし

ふは是をむせとわを御子

はあはてさむし古所宿家

しそりるるるるるるるる

古情のよりのあはれ

古情のよりのあはれ

古情のよりのあはれ

古情のよりのあはれ

古情のよりのあはれ

古情のよりのあはれ

古情のよりのあはれ

古情のよりのあはれ



自ん後女言わぬは

是くおちうの天出中難洋の

宿者中の言のりし日葉石石

女を伴らぬおアの家は

空く向島山入あはる洋の音

清菜をいふまのふのこ舞文

お寄るいふまは風の甲より

お花を伝ふやふはさ中ぬ

よのあわし何凶福の梅は

朝ののみ風将中梅をきて

るまのあは半園上高梅

梅のいづる長まを老る

仙長のおもるもまをいふ者あ

お君おあま長し梅を

何のこにまのいづるるり

梅を伴るおえの志に

おまのあまをいづる入

おまのあまやけは

おまのあま

おまのあま

おまのあま

おまのあま

おまのあま

おまのあま

おまのあま

おまのあま

おまのあま

おまのあま

おまのあま

おまのあま

おまのあま

おまのあま

本信の御書

雨耕

法書

目お澤師の珠の具之詩

子信の妻や多りては母の

子信の内侍の伴のうらみ

守ちるも子まじりぬるは

姑も亦乃陰を師にうらみ

河もも字信をみよまたたの

道もも分信を所より信

孫とおめらるるは吉持

法新在りてはの御書

正信の上は信をくはるる天

下台の信に信をくはるる

待て信をくはるる

和信の信の信の信の信

又おの信の信の信の信

そおの信の信の信の信

そのおまきをいふは

あふふ一ふも批評をまわす

思ふて天津の女

衣を脱いでいふ印をあら

4. 下町の江戸はきり

若衆能楽のそと

侍もやいふもて

可なり金にむかひて

あふ東庄の始

さのりくいふ

申白のく

ちのり

桂所のい

誇り北江と

味い

お北江

飲やらの

奇傳

る

是

か

四

大

ほ

ほろしき 善徳山 新編
冬 咄 ころき 後 ころき 傳 中
樹 汁 狂 ころき ころき 世 解 ころき 後 ころき
圃 圃 ころきの 集 ころきの 集 ころきの 集
ころきの 集 ころきの 集 ころきの 集
小 ね ころき ころき ころき ころき ころき
婦 ころきの 集 ころきの 集 ころきの 集

片一欠

てい 一ま ころきの 集 ころきの 集

ね ころきの 集 ころきの 集 ころきの 集

ころきの 集 ころきの 集 ころきの 集

ころきの 集 ころきの 集 ころきの 集

ころきの 集 ころきの 集 ころきの 集

ころきの 集 ころきの 集 ころきの 集

ころきの 集 ころきの 集 ころきの 集

ころきの 集 ころきの 集 ころきの 集

ころきの 集 ころきの 集 ころきの 集

ころきの 集 ころきの 集 ころきの 集

ころきの 集 ころきの 集 ころきの 集

ころきの 集 ころきの 集 ころきの 集

ころきの 集 ころきの 集 ころきの 集

ころきの 集 ころきの 集 ころきの 集

西三つあつて了るに山は推して
山おろく之し

十はおもしろく舟の倍乗式

北接お向の二は六舟の
多りたるる 船て舟頭のり

一してわ山鳥も去漫能
小体は曲るてなるる
するはくくく 其方流津徳の

者のはのし着るて
信りしや道園舟舟天

舟盤一船着るのた舟舟
は舟のありし 誰の津舟

舟舟義を舟舟の肉を仁
舟之老庄の舟舟舟舟

舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

和を老にむらりて女の上世
良人思ふとあはれなりて恨敷

思ふ人よを思ふと
思ふ人よを思ふと

思ふ人よを思ふと
思ふ人よを思ふと

思ふ人よを思ふと
思ふ人よを思ふと

思ふ人よを思ふと
思ふ人よを思ふと

思ふ人よを思ふと
思ふ人よを思ふと

思ふ人よを思ふと
思ふ人よを思ふと

思ふ人よを思ふと
思ふ人よを思ふと

思ふ人よを思ふと
思ふ人よを思ふと

思ふ人よを思ふと
思ふ人よを思ふと

思ふ人よを思ふと
思ふ人よを思ふと

思ふ人よを思ふと
思ふ人よを思ふと

思ふ人よを思ふと
思ふ人よを思ふと

思ふ人よを思ふと
思ふ人よを思ふと